

令和6年度私立学校初任者研修北陸地区研修会実施概要
 ～私立学校教員としての心構えの体得と実践的指導力の育成～

実 施：石川県私立中学高等学校協会

会 期：令和6年7月31日（水）～8月2日（金）3日間（宿泊研修）

会 場：KKR ホテル金沢（石川県金沢市）

参加人員：47名

参加対象者：富山・石川・福井・長野の各県私学協会に加盟する私立中学校・高等学校・中等教育学校の新規採用教員（含経験者）及び新規採用教員に準ずる者（近年の採用教員を含む）

【日程細目】

第1日 7月31日（水）

12:00	受 付 【3階 鳳凰A入口】
13:00	<p>開 会 式 司会 金沢高等学校 理事長・校長 杉浦外美夫</p> <p>主催者挨拶 一般財団法人日本私学教育研究所 私立学校初任者研修等事業検討委員 菅沼宏比古 開催県代表挨拶 石川県私立中学高等学校協会会長 向 孝志 日程説明等 一般財団法人日本私学教育研究所 私立学校初任者研修北陸地区 杉浦外美夫</p> <p style="text-align: right;">【3階 鳳凰A】</p>
13:30	<p>全体研修① 司会 金沢高等学校 副校長 日 吉 正</p> <p>演 題「私学の現状と今後の課題」 講 師 菅沼 宏比古 一般財団法人日本私学教育研究所 私立学校初任者研修等事業検討委員 学校法人西海学園 理事長</p> <p style="text-align: right;">【3階 鳳凰A】</p>
15:00	休 憩・移 動
15:20	<p>グループ討議①</p> <p>(1)30分：研修会のねらい発表（各自発表し共有する） (2)30分：役割分担決定（リーダー、記録、発表、PPT作成、交流会での紹介） (3)30分：勤務校（各自の）課題説明（課題などを出し合い共有する）</p> <p>Aグループ【3階 鳳凰B】助言指導：小坂 英洋 遊学館高等学校主幹教諭 Bグループ【3階 鳳凰B】助言指導：表 治男 小松大谷高等学校副校長 Cグループ【3階 鳳凰B】助言指導：盛田 知克 金沢龍谷高等学校教頭 Dグループ【3階 鳳凰B】助言指導：阿部 俊 北陸学院高等学校副校長 Eグループ【3階 鳳凰B】助言指導：藤原 史恵 金沢高等学校教頭 Fグループ【3階 鳳凰B】助言指導：中榮 康博 金沢高等学校主幹教諭 Gグループ【2階 いずみ】助言指導：本田修一郎 星稜高等学校教頭 Hグループ【2階 やよい】助言指導：永井 利幸 金沢学院大学附属高等学校教頭 Iグループ【2階 いずみ】助言指導：奥田 浩 金沢学院大学附属高等学校教頭 Jグループ【2階 やよい】助言指導：本 茂通 遊学館高等学校副校長</p>
17:00	諸 連 絡【それぞれの会場】
17:10	チェックイン・休 憩
18:00	<p>経験交流会 司会 金沢高等学校 教頭 藤原 史恵</p> <p>挨拶 乾杯</p>
19:30	<p>各グループ紹介（5分×10グループ）</p> <p style="text-align: right;">【3階 鳳凰A】</p>

第2日 8月1日(木)

7:00	朝食【2階 アイビス】
9:00	<p>全体研修② 司会 金沢高等学校 副校長 日吉 正</p> <p>演題「主体的・対話的・深い学び」理論編</p> <p>講師 田中 康友 北陸大学国際コミュニケーション学部 教授・学科長</p> <p>福山 悠介 北陸大学国際コミュニケーション学部 教授</p> <p>【3階 鳳凰A】</p>
10:00	休憩
10:10	<p>全体研修③ 司会 金沢高等学校 副校長 日吉 正</p> <p>演題「主体的・対話的・深い学び」実践編</p> <p>講師 田中 康友 北陸大学国際コミュニケーション学部 教授・学科長</p> <p>福山 悠介 北陸大学国際コミュニケーション学部 教授</p> <p>【3階 鳳凰A】</p>
12:00	昼食
13:00	<p>全体研修④ 司会 金沢高等学校 副校長 日吉 正</p> <p>演題「学習指導の基本的考え方を学ぶ」</p> <p>講師 永松 宏之 星稜高等学校 進学指導部主任</p> <p>【3階 鳳凰A】</p>
	休憩
14:00	<p>全体研修⑤ 司会 金沢高等学校 副校長 日吉 正</p> <p>演題「生徒指導の基本的考え方を学ぶ」</p> <p>講師 谷口 智 金沢高等学校 教諭・元生徒指導部主任</p> <p>【3階 鳳凰A】</p>
	休憩・移動
15:10	<p>グループ討議②</p> <p>生徒指導及び学習指導の基本的考え方を学んだ後、各班で学習指導・生徒指導からそれぞれ1つ項目を取り上げ、協議し、その解決策(提案)等をまとめ、PPTを翌日の発表までに作成する。なお、時間が不足する場合は、夕食後各班で集まり、協議及び作業を行う。</p> <p>(例) 生徒指導上の問題 → SNS上のいじめ等の問題への対応など</p> <p>学習指導上の問題 → 多様化する生徒への学力保障など</p> <p>【グループ分けは、グループ討議①に同じ】</p>
18:20	休憩・夕食(班ごとに自由に夕食)
20:00	

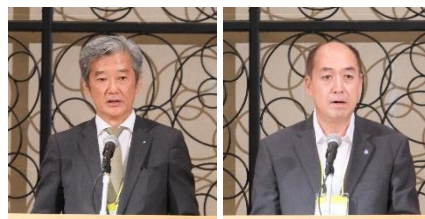
第3日 8月2日(金)

7:00	<p>朝食【2階 アイビス】</p> <p>チェックアウト(各自フロントにて)</p>
9:00	<p>各班の発表 司会 金沢高等学校 副校長 日吉 正</p> <p>10分×10班 【3階 鳳凰A】</p>
10:40	<p>指導・講評 司会 金沢高等学校 副校長 日吉 正</p> <p>指導 菅沼 宏比古 一般財団法人日本私学教育研究所 私立学校初任者研修等事業検討委員</p> <p>【3階 鳳凰A】</p>
11:00	<p>まとめ 司会 金沢高等学校 副校長 日吉 正</p> <p>レポート作成・提出 【3階 鳳凰A】</p>
11:30	<p>閉会式 司会 金沢高等学校 理事長・校長 杉 浦 外美夫</p> <p>主催者挨拶 一般財団法人日本私学教育研究所 私立学校初任者研修等事業検討委員 菅沼宏比古</p> <p>修了証授与 一般財団法人日本私学教育研究所 私立学校初任者研修等事業検討委員 菅沼宏比古</p> <p>【3階 鳳凰A】</p>
12:00	解散

概要 ※講師、担当者の所属・職名は日程細目参照。

【開会式】

開会式では、主催者を代表し菅沼宏比古・当研究所私立学校初任者研修等事業検討委員が挨拶をし、1月1日の地震のお見舞いとともに「研修内容を教育活動に活かして貰うとともに、教育観についても身に付けてほしい」と述べた。開催県を代表し、向孝志・石川県私立中学高等学校協会会長が挨拶し、「社会人としての常識をみにつけて信頼される教員になってほしい。また確かな指導力を身に付けて、教育のプロとして結果を出してほしい。」と述べた。



【全体研修①】「私学の現状と今後の課題」

菅沼宏比古・学校法人西海学園理事長

菅沼講師は、少子化をはじめとする私学を取り巻く現状や建学の精神の大切さを説明するとともに、私立学校の初任者としての心構えを伝え、素晴らしい私立学校の先生になってほしいと語った。

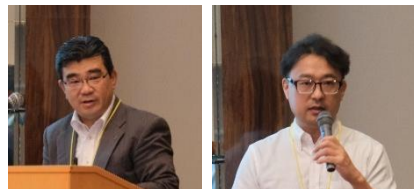


【全体研修②・③】「主体的・対話的・深い学び」理論編・実践編

田中康友・北陸大学国際コミュニケーション学部教授・学科長

福山悠介・北陸大学国際コミュニケーション学部教授

理論編では北陸大学国際コミュニケーション学部でのアクティブ・ラーニング導入の経緯や趣旨、実際の様子を、グループワークを交えながら説明し、主体的・対話的で深い学びを何故実践するか、どのように行うのが述べられた。実践編では、参加者はグループに分かれてアクティブ・ラーニングの授業を体験し、その体験を元に自身の授業について考えさせる内容であった。



【全体研修④】「学習指導の基本的な考え方を学ぶ」

永松宏之・星陵高等学校進路指導部主任

ICTによる情報共有を主軸とした進路指導課業務における5つの改革の紹介にあわせ、予測困難な時代を生き抜くための教育に対する考え方が、講師の経験を踏まえて本音で語られた。「なぜ勉強しなくてはならないのですか?」「進学せずに就職した方がいいですよ?」といった疑問にどう向き合えばよいのか、参加者に問う内容であった。



【全体研修⑤】「生徒指導の基本的な考え方を学ぶ」

谷口 智・金沢高等学校教諭・元生徒指導部主任

生徒指導を行う上での基本的な考え方や、対応について、講師が経験を踏まえて語られた。そして、「迷ったら原点へ!」「毎日が研究と修養!」「セルフジャッジは禁物!」という3点が何故、重要であるかが語られた。



【グループ討議①・②、発表】

グループ討議①では、参加者が持っている課題を共有し話し合いが行われた。グループ討議②で学習指導及び生徒指導について全体研修で学んだことを各グループで討議し、発表に向けたPPTを作成した。最終日には各グループが発表を行った。

【閉会式】

菅沼宏比古・当研究所私立学校初任者研修等事業検討委員は終了証を授与につづいての代表挨拶で、研修会で学んだことを目の前の子供達をどれだけ引き上げるかということを中心に考えて現場に活かしてほしい。そして、研修会作ったネットワークを大切に、困った時は互いに相談し、がんばってほしいと述べ研修会を締めくくった。

参加者アンケートより

全体研修①「私学の現状と今後の課題」(菅沼先生)

- 通信制の増加により、公立と私立が争っている場合ではないと感じた。転学するのではなく、最初から通信を選択する生徒も多く全日制の意味を考えさせられた。
- 学校で不登校になる生徒はいるが、学校に来られないなら通信制で頑張るという認識があった。しかし、卒業率の不透明さや卒業後の無職の割合を見ると、いい点悪い点があると感じた。
- 少子化が進み、生徒確保が難しくなっている。さらに、通信制高校が増えそこに進学・転学する生徒が増加している。私立ならではの特色を活かし、生徒数を減少させない努力が必要。
- 中学校で不登校でも、本人の意識で変わると分かった。生徒に寄り添い本気でぶつかれば、生徒も本気になり、先生に感謝する生徒になる、という話が心に響いた。

全体研修②③「主体的・対話的・深い学び」(田中先生・福山先生)

- 生徒に「主体的・対話的・深い学び」を求める前に、教員が実践していかなければいけない。
- AL はあくまで手段であるという点を再確認することが出来た。AL をしなければと思いついで、変な授業形態をとって終わりというパターンが多く意味を見出せていなかったが、1 つの方法を学ぶことが出来た。
- 理論だけでなく、実践において体感的に「知的探求心」が動かされたと感じた。AL とは授業構成(方法)がアクティブなのではなく、アクティブに学ぶことだという言葉が印象的だった。
- 心が付くと学びが深まるという言葉がとても響いた。動機付けや振り返りを大切にしたい。
- 自分の考えを言語化できることが、主体的で深い学びに繋がる。

全体研修④「学習指導の基本的考え方を学ぶ」(永松先生)

- まずは生徒と誠心誠意向き合うことが大切である。その中で生徒との対話の中で自分の意見を伝え合う場面を作り、興味関心に合った行動選択が大切だと感じた。
- 生徒に強制させるのではなく、やりたくなるような仕組みを作り、主体性を持たせる事が大切。
- 授業中無気力な態度をとっている生徒に対して頭ごなしに注意するのではなく、その背景にも注目していく必要がある。
- 社会に騙されずに、生き抜く為にはどうしたら良いのかを主体的に考えさせる必要がある。

全体研修⑤「生徒指導の基本的考え方を学ぶ」(谷口先生)

- 生徒指導を行う目的は、「自己指導能力を身に付けられた」という成功体験を生徒に与えるためだという話が興味深かった。
- 現状は生徒がダメなことをした際にはそれを正すことしかしていなかったが、これからは正した先の目的を意識して行きたい。
- セルフジャッジは禁物という話があったが、経験が増えるにつれて、セルフジャッジをしてしまう可能性が増加すると感じた。
- 「生徒の長所を生徒指導に生かす」という考えは今まで無かったため、とても勉強になった。
- 生徒指導において大切なのは、一人の生徒を全教員・家族・社会で見ることだと感じた。